

マークのついた講義は、新潟県教育委員会が主催する「いきいき県民カレッジ」の講座として登録されています。受講修了時に1単位認定されます。

本講座は、新潟経営大学観光経営学部の1年次配当授業を一般公開して実施します。休日午後の一ときを、現役大学生と机を並べてお過ごしください。

最初の一步は末の千里

キックオフ・ミーティング (13:00~14:30)
地域活性化に資する産学官金連携

パネリスト: 阿部貴行 加茂信用金庫理事長
佐藤俊哉 加茂信用金庫支援課長
イワン・ツェリッシュェフ 観光経営学部長・教授
織原正明 UX21 エグゼクティブ・プロデューサー
ファシリテーター: 堀 峰生 経営情報学部教授・地域活性化研究所所長

6/25 (日)



観光立国の実現に向けて
地域に人を集めるグローカル時代のおもてなし

観光経営学部 教授
小畑 博正



これまでの経験を踏まえて、「観光とは何か?」についてお話ししたいと思います。また、観光条件の不利な地域の事例として「スペインバスク州サン・セバスチャンの美食世界一戦略」を紹介し、自地域に置き換えながら、地域が今何をすべきかを提案する内容にしたいと思います。

食の伝道師が斬る!



特別客員教授
金丸 弘美

1 限目 (13:00~14:00)
今、足元から急変する観光の流れ
~町の資源をつなぐことが人を集めるスポットに~

2 限目 (14:10~15:10)
タカラは足元にあり!
~地方観光に大きな流れがおきている~

3 限目 (15:20~16:10)
フリー・トーク

7/1 (土)

山村の小さな農家の民泊に、全国各地から人が訪れたり、郊外の民家を改装したレストランに多数の来客があったり、修学旅行生が漁村を訪れたり、あきらかに観光客の流れが変化しています。

概して、食、イベントを連携させて、地域全体で人を呼ぶ形になっており、この動きは全国に広がっています。専用サイトもできています。

こんな中、農村への海外観光客誘致が注目を集めています。というのは、海外の人たちが日本らしい文化、風景、日本食、農村体験、ツーリングなどに興味を持つ人たちが増えているからです。

本講義では、食を中心に多様化する観光のニーズについて一緒に考えます。

農業王国に一家言あり



「三方よし」のツーリズムを目指して
観光経営学部 教授
里村 孝一



「にいがたフード・ブランド」を中心とした食の観光資源化について
観光経営学部 准教授
滝沢 憲一

7/22 (土)

関川村「朝ごはんプロジェクト」、村上・岩船地域における「周遊グリーンツーリズム」の仕掛けなど、宿泊の魅力づくりや農業体験施設の利用者増への取り組みについてお話しします。キーワードは、「連携」です。

信濃川下流域は肥沃な土地であることから、にいがたフード・ブランドに指定されている「ルレクチエ」、「越後姫」、「新潟枝豆」の栽培が盛んであります。また、2017年4月に新潟県内の農産物として初めて「くろさき茶豆」が農林水産省の地理的表示保護制度(GI)に登録されました。今こそ、新潟の農産物を観光資源として活用するチャンスであります。本講義では、新潟の農産物の魅力を再確認する時間になりたいと思います。

地域振興の源泉は"人"



都市農村交流から見た観光振興について

観光経営学部 教授
出口 高靖

平成27年国勢調査の確定値によれば、総人口は、大正9年の調査開始以来、初めて減少に転じて、人口減少問題が現実のものとなりました。既に、国・都道府県・市町村と地方と様々な組織が連携して、地方創生、地域活性化に取り組んでおり、重要戦略として観光振興に取り組んでいます。その観光は地方にとって本当に稼げる普遍的な手段なのだろうか。地方と都市、農村と都市との関係、観光振興の課題を明らかにし、都市農村交流の視点から、先行事例も踏まえて、未来戦略の方向性を紐解きます。

7/8 (土)



まち 都市と地域を元気にする着地型観光
~高野街道と熊野古道のニューツーリズム事例~

観光経営学部 教授
近藤 政幸

訪日旅行市場・都市高齢者人口が急拡大する一方で、地域人口の縮小に直面しています。地域全体でお宝さがしをし、これをつないで磨いて"地域ブランド"を誇る、創造的観光マネジメントの取り組みが急がれています。マーケティング(鳥の眼)とマネジメント(虫の眼)の視点をもって地域外から稼ぐ「地域循環型ビジネスモデル」についてお話しします。

まちづくりの先人に学ぶ



特別客員教授
高野 誠鮮

1 限目 (13:00~14:00)
実践! 戦略的まちづくり・むらづくり
2 限目 (14:10~15:10)
地域創生のイノベーション
~オーガニックからジャポニックへ~
3 限目 (15:20~16:10)
フリー・トーク

7/16 (日)

実践! 戦略的まちづくり・むらづくり (1限目)

能登半島の小都市「羽咋市」をUFOの町に、地元生産コシヒカリをローマ法王献上米としてブランド米に、深刻な過疎化に陥る限界集落からの脱却など、自らの体験と全国の成功事例と失敗事例を紹介しながら、まちづくり、むらづくりについて考えます。

地域創生のイノベーション (2限目)

自然栽培は、化学肥料や有機肥料、さらに農業や除草剤も使わない農法です。たしかに、慣行栽培の生産者や専門家から見れば常軌を逸した農法です。しかし、ここでは農業技術の賛否を問うものではありません。視野を世界に向けて、「安全・安心」をグローバル・スタンダードと捉え、将来を見据えた「Think Global, Act Local」の発想で進める農業戦略について考えます。

共創社会の夜明け

地域資源からのメッセージが聞こえる
~妙成寺国宝化プロジェクトをとらえて~

特別客員教授
高野 誠鮮

数々のまちおこしを成功に導いたスーパー公務員が退職後に取り組む「妙成寺国宝化プロジェクト」を通じた活動を事例紹介し、地域住民が一体となった活動や機運の醸成、省庁との折衝の実態など、歴史的文化資産の国宝化を成すにいたるプロセスを紹介し、地域資源を活用した地域活性化策についてお話しします。

7/30 (日)

クロージング
ミニ・パネルディスカッション

観光振興で地域に活力を
~産学官金連携の役割~

パネリスト:
加茂商工会議所会頭
太田 明(産)
地域活性化研究所所長
堀 峰生(金)

特別客員教授
高野 誠鮮(官)

観光振興が地域活性化を推進するにあたり、より実践に即した「産学官金連携」のあり方について登壇者各々の立場で議論します。

ファシリテーター:
観光経営学部教授
小畑 博正(学)